

「もったいない」MOTTAINAIの再認識

一般社団法人 洗楓座
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事

佐藤建吉

▼「もったいない」から
MOTTAINAI

に

「もったいない」は、
私たち日本人がいつも使
う言葉でもあるが、その
言葉の大切さに気付かせ
てくれたのは、ケニヤの
マータイさんだった。ワ
ンガリ・マータイ（19

71年にナイロビ大学）
ケニヤで動物学の博士
を取得し、1977年に
グリーンベルト運動を創
設した。農村女性に植林
を通じた社会参加を呼び
かけ、延べ8万人が参加
し、約3000万本の植
林を行った。植林活動を
女性の地位向上や民主化
に向けた姿勢は、政府の
弾圧を受け逮捕された
が、1997年には大統
選に出馬。2002年
に国会議員に当選し、環
境副大臣に就任した。環
境保護と民主化への取組
みの功績が評価され、2
004年に、ノーベル平
和賞を受賞した。

2015年2月16日、
京都の国際会議場で、京
都議定書の発効式が行わ
れた。私も会場での記念
行事に参加した。この発

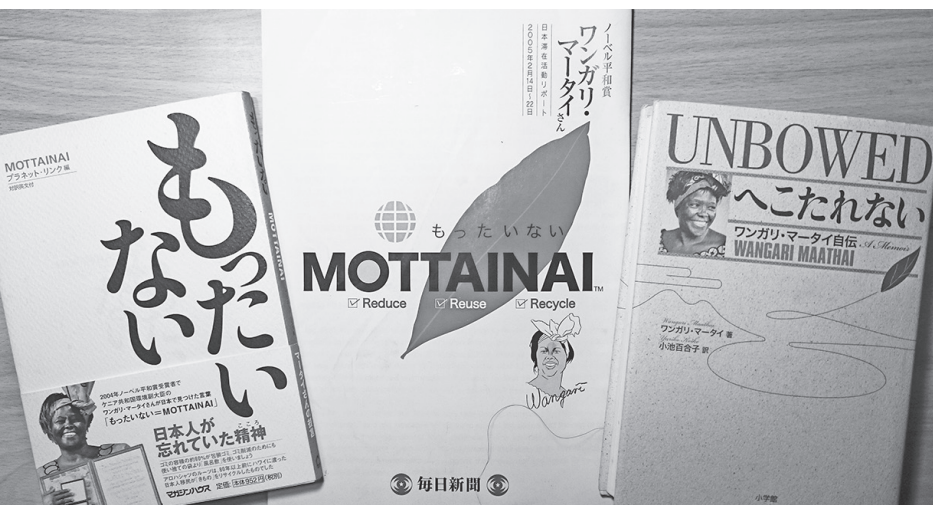
効式で、マータイさんは
基調講演を行った。当時
の環境大臣は、小池百合
子・現東京都知事であつ
た。マータイさんのノー
ベル賞は、環境部門での
受賞であり、毎日新聞社
の招聘で行われたもので
あった。

マータイさんの来日
は、2月14日から22日ま
での9日間で、初日の14
日には、毎日新聞社を訪
問し、観音編集局長のイ
ンタビューが行われた。

3R（リデュース、リ
ユース、リサイクル）再
使用、リサイクル、再
利用）運動は、資源の有
効利用をするという日本
の文化で、価値観である
と、それを、世界に広め
たいと、マータイさんが
発言した。これが契機と
なり、マータイさんと毎
日新聞社による「もった
いない」を「MOTTAINAI」として国際語
にする運動が始まった。

再使用、リサイクル、再
利用）運動は、資源の有
効利用をするという日本
の文化で、価値観である
と、それを、世界に広め
たいと、マータイさんが
発言した。これが契機と
なり、マータイさんと毎
日新聞社による「もった
いない」を「MOTTAINAI」として国際語
にする運動が始まった。

写真中央



▼「もったいい」vs「もっ
たいない」

「もったいい」は、漢字
では「勿体」で「物体」
とも書き、物の本来ある
べき姿、「本体」を意味
する。「もったいいない」
は、「その物の本来の価
値が活かされず、無駄に
なるのが惜しい」という
意味である。「物体」
は、もともと仏教用語
で、「もったいいない」に
は、そうした縁の連鎖を
断ち、万物の命をないが
しろにする行為を惜し
み、嘆く気持ちも込めら
れている。

まさに限られた資源を
無駄にしないで、効率的
に活かす使つことが「も
ったいいない」の精神とな
り、それを文化とする日
本人の気持ちを、マータイ
さんは直観的に感じ取
つたのだった。

▼マータイさんの個性・
感性の醸成

日本で出会った「もっ
たいいない」を、マータイ
さんが意味あるものとし
て取り上げた個性や感性
は、自伝である『へこた
れない』（小池百合子
訳、小学館、2007
年、写真右）を通じて納
得できる。

イギリス領の東アフリ
カに生まれたマータイさ
んの少女時代、その地域
や家庭環境などが語ら
れ、やがて高校を卒業
し、ケネディ・エアリア
プログラムで、アメリ
カの女子修道院の大学に
留学。その後、ピッツバ
ーグ大学で日本ウズラの
松果体の研究で生物学の
修士を取得した。

機「闘いは続く」「政治
の扉を開ける」「立ち上
り、歩こう」「希望の大
樹」が後半の章立てで、
ノーベル賞受賞に至る波
乱万丈を自述している。

▼「もったいいない」の再
認識

日本の伝統的な慣習、
日本人の精神を、外国人
が着眼、それを契機とし
て、日本国内に勢い（モ
ーメント）が生じた事例
として「もったいいない」
を取り上げた。これは、
島国である日本人の特質
であるともいえる。

筆者は2005年8
月、「MOTTAINAI
I風車」と名付けた垂直
軸風車を制作し、ある学
会で展示した。資源・環
境・エネルギーの大切さ
を表象するための風車で
ある。それは、トイレッ
ト・ロールペーパーの芯
を再利用し、ケナフの複
合材を風車の羽根を構成
した。これは、木製風車
箱のような外観の風車
で、毎日新聞の紙上で紹
介された。

マータイさんは、再生
可能エネルギー利用の活
動を、生前行っていた。
日本では、3・11を経験
しても、再生可能エネル
ギーの利用拡大は遅々と
した歩みに留まっている。
小池知事が2020
年のオリンピックを、M
OTTAINAI大会と
位置付ける意向を示して
いるが、いま、「もった
いいない」を、持続可能な
社会づくりの妙薬とした
いものである。

環境悪化の兆候である
森林伐採、植生破壊、持
続可能でない農業、土壌
の流失などの解決とし
て、植林につながった。
私生活では離婚・大学失
職などが重なった時期で
もあるのだが、この課題
解決手法が、彼女の好機
を生み出した。